

社会資本総合整備計画 事後評価委員会

日時：平成30年6月25日（月）

午後1時00分

場所：豊田工業高等専門学校

次 第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 制度及び委員会の概要説明
- 4 議題 事後評価調書の説明
良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供
- 5 閉会

【配布資料】

議事次第

資料1 委員会規約

資料2 出席者名簿

資料3 平成28年度社会資本総合整備計画

資料4 事後評価調書

社会资本総合整備計画 事後評価委員会規約

(目的)

第1条 社会資本総合整備計画事後評価委員会（以下「委員会」という。）は、豊田市・愛知県が作成した以下の社会資本総合整備計画について、計画期間満了に伴い、目標値の達成状況の確認、評価、改善する検討事項等の検討を行うことを目的とする。

- (1) 環境都市にふさわしい鉄道駅などを中心としたコンパクトなまちづくり
- (2) 環境にやさしく利便性の高い交通体系の構築
～自動車交通と公共交通が共存する交通の最適化～
- (3) 安全で快適な暮らしを支える生活道路の整備
- (4) 良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供
- (5) 計画的な施設の改築更新による安全・安心なサービスの提供

(検討内容)

第2条 委員会は、下記の内容について検討を行う。

- (1) 事業の成果の把握及び定量的な評価の実施
- (2) 今後の方針、改善すべき事項の検討

(組織)

第3条 委員会は、別表に掲げる委員で構成するものとする。

- 2 委員会には委員長を置くものとし、委員の互選によりこれを定める。
- 3 委員長は、会の進行をつかさどる。

(事務局)

第4条 事務局は、豊田市建設部建設企画課、上下水道局下水道建設課、都市整備部区画整理1課に置く。

- 2 事務局は、次の事務を行う。
 - (1) 委員会の開催に関すること。
 - (2) 委員会の記録に関すること。
 - (3) その他委員会の運営に必要な事務に関すること。

(その他)

第5条 この規約に定めのない事項は、委員会で協議することとする。

附 則

この規約は、平成29年 1月26日から施行する。

社会資本総合整備計画事後評価委員会 委員名簿

所 属	職氏名	備 考
大同大学工学部建築学科土木・環境専攻	教 授 嶋田 喜昭	学識経験者 専門分野：都市交通計画
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	教 授 野田 宏治	学識経験者 専門分野：交通工学
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	准教授 松本 嘉孝	学識経験者 専門分野：水質工学

※順不同

▼事務局・関係課 (◎：事務局)

◎豊田市建設部 建設企画課		
◎豊田市都市整備部 区画整理1課		
◎豊田市上下水道局 下水道建設課		
愛知県豊田加茂建設事務所 道路整備課		
豊田市建設部 土木課		
豊田市建設部 街路課		
豊田市建設部 地域建設課		
豊田市建設部 道路予防保全課		
豊田市建設部 河川課		
豊田市都市整備部 都市整備課		
豊田市都市整備部 交通政策課		
豊田市都市整備部 区画整理2課		
豊田市都市整備部 土橋区画整理事務所		
豊田市都市整備部 寺部区画整理事務所		
豊田市都市整備部 花園区画整理事務所		
豊田市都市整備部 都市再開発課		
豊田市都市整備部 公園課		
豊田市上下水道局 下水道施設課		
豊田市社会部 防災対策課		
豊田市社会部 旭支所		
豊田市企画政策部 都市計画課		
豊田市企画政策部環境モデル都市推進課		
豊田市子ども部 保育課		
豊田市学校教育部 学校づくり推進課		

※順不同

社会资本総合整備計画事後評価委員会 出席者名簿

所 属	職氏名	備 考
豊田工業高等専門学校環境都市工学科	准教授 松本 嘉孝	学識経験者 専門分野：水質工学

豊田市上下水道局 下水道建設課	課 長 野口 朝司	
豊田市上下水道局 下水道建設課	副課長 岡田 政彦	
豊田市上下水道局 下水道建設課	担当長 伊藤 貴子	
豊田市上下水道局 (上下水)企画課	担当長 市村 哲	

※順不同

(参考様式2) 社会資本総合整備計画

平成29年8月31日

計画の名称	良好な水循環の再生・保全と安金・安心なサービスの提供		
計画の期間	平成28年度(1年間)		
計画の目標	交付対象 豊田市		

下水道整備を行うことにより、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。

計画の成果目標(定量的指標)

- ① 下水道整備面積のうち、重点事業を除いた面積を、0.0%(H27末)から100.0%(H28末)に増加させる。
 ② 下水熱利用施設整備率を0% (H27末) から100% (H28末) に増加させる。

定量的指標の定義及び算定期式

① 重点事業外の下水道整備面積率 ② 下水熱利用施設整備率	当初既定値		定量的指標の現在値及び目標値		備考
	(H28当初)	中間目標値	(H28末)	最終目標値	
① 重点事業外の下水道整備面積率 ② 下水熱利用施設整備率	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
全体事業費	A (A+B+C+D)	B 267百万円	C 0百万円	D 0百万円	C/A+B+C+D 0%

交付対象事業

番号	下水道事業			事業内容			事業実施期間(年度)			備考				
	事業種別	地域	交付対象	直接受付	事業者	省略	(延長・面積等)	市町村名	H28	H29	H30	H31	H32	
2-A-3	下水道	一般	豊田市	直接	豊田市	分流	新設	管渠整備事業(未普及箇所)	汚水管	φ75~300mm	1~3, 0.50m	豊田市		
その他														
2-A-4	下水道	一般	豊田市	直接	豊田市	分流	新設	下水熱利用のための施設整備	熱利用管	1~210m		豊田市		
													1.4	策定済 新世代
													合計	267

B 関連社会資本整備事業(該当なし)

番号	事業種別	地域	交付対象	直接受付	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容	事業実施期間(年度)			備考	
									工種	工種	市町村名		
												合計	0

C 効果促進事業(該当なし)

番号	事業種別	地域	交付対象	直接受付	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容	事業実施期間(年度)			備考	
									工種	工種	市町村名		
												合計	0

D 社会資本整備(円滑化地籍整備事業(該当なし))

番号	事業種別	地域	交付対象	直接受付	事業者	省略	要素となる事業名	事業内容	事業実施期間(年度)			備考	
									工種	工種	市町村名		
												合計	0

計画の名称	良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供	交付対象	豊田市
計画の期間	平成28年度 (1年間)		
計画の目標			

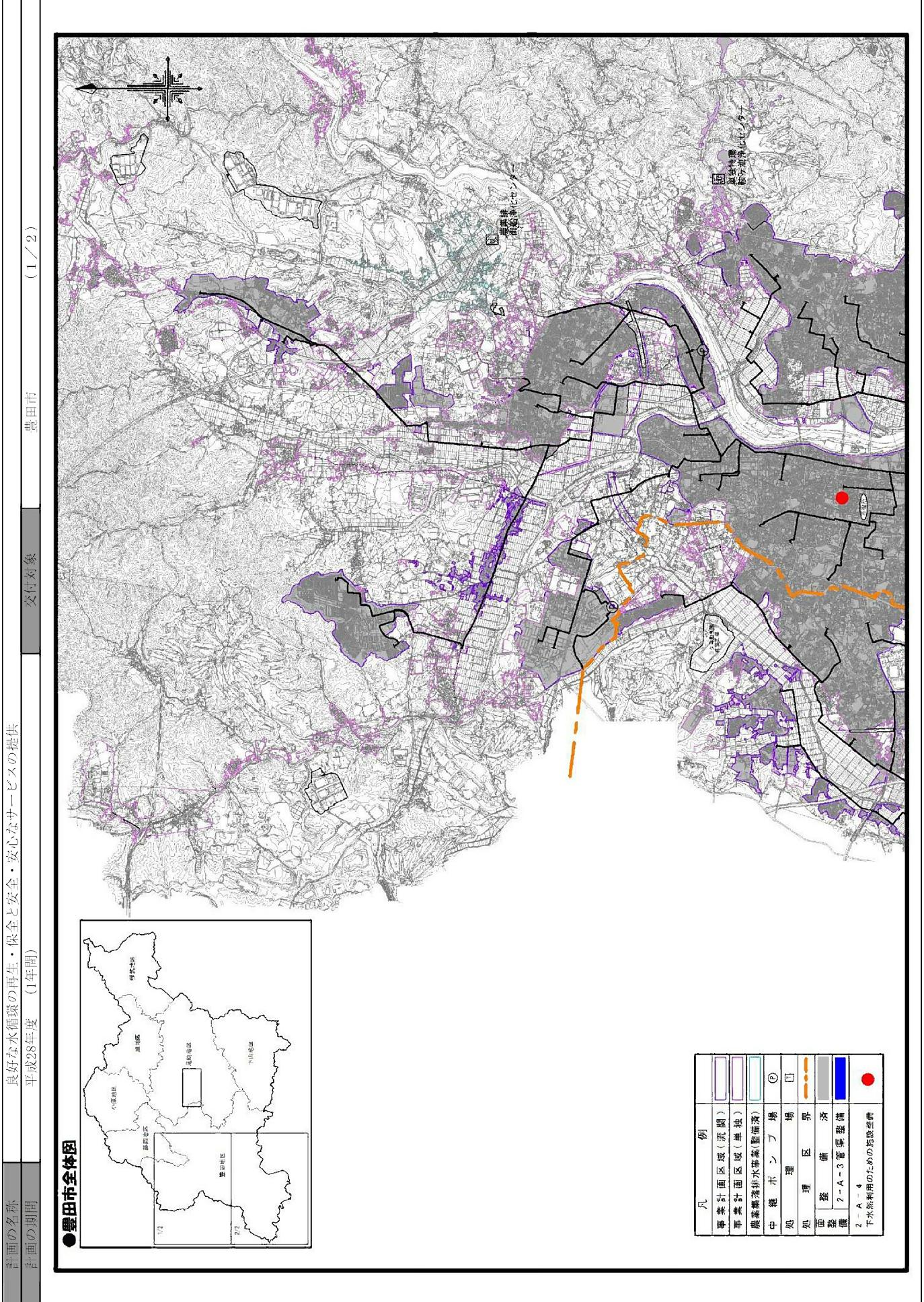
下水道整備を行うことにより、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。

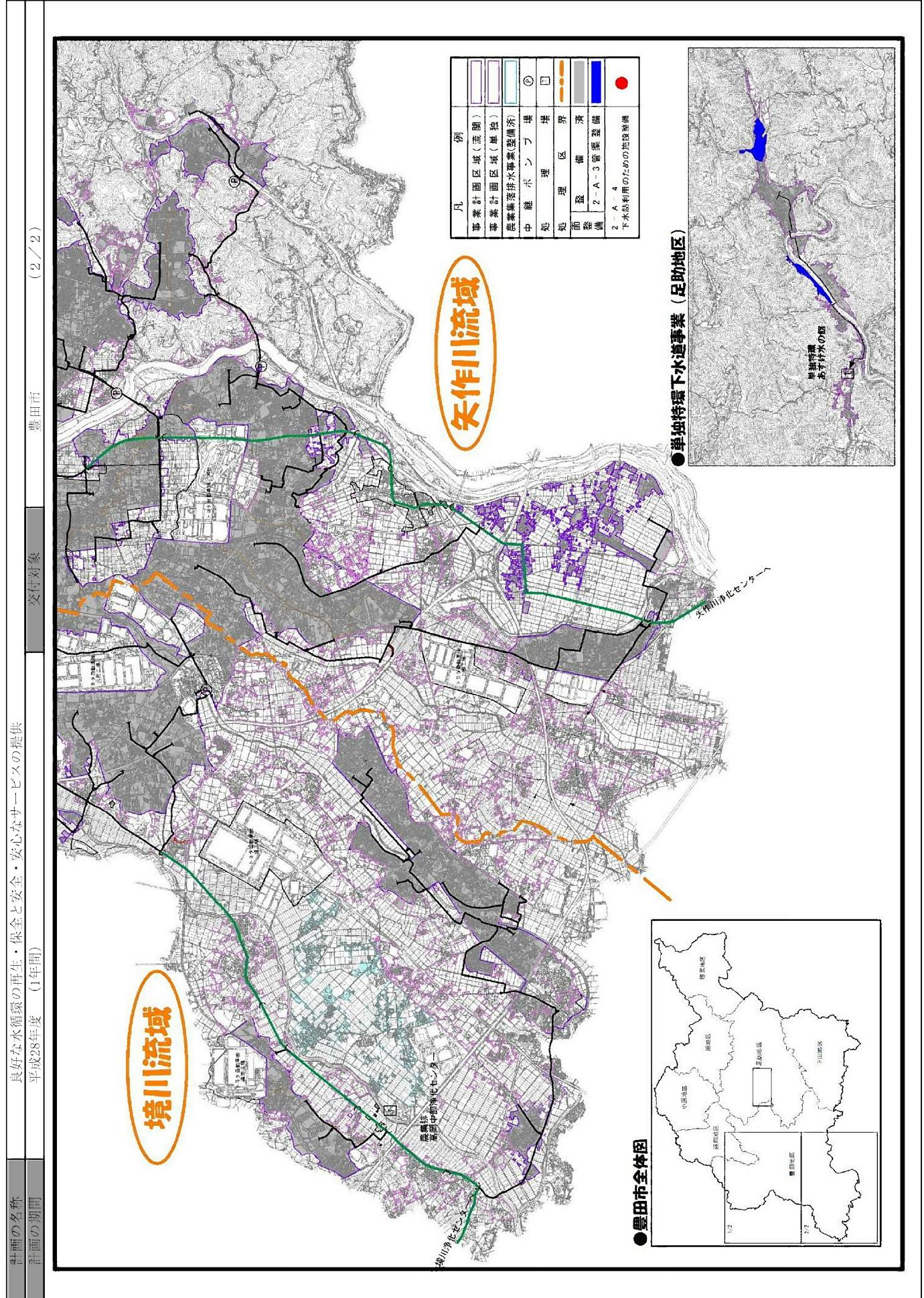
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H28	H29	H30	H31	H32
配分額 (a)	158,400				
計画別流用 増△減額 (b)		△ 25,000			
交付額 (c=a+b)	133,400				
前年度からの繰越額 (d)	0,000				
支払済額 (e)	95,400				
翌年度繰越額 (f)	38,000				
うち未契約 繰越額 (g)	0,000				
不用額 (h=c+d-e-f)	0,000				
未契約繰越額+不用率 (i=(g+h)/(c+d))	0.0%				
未契約繰越+不相済が 10%を超える場合そ の理由					

※各年度の決算額を記載





社会资本整備総合交付金チェックシート

計画の名称: 良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供(第2回変更)

都道府県名: 愛知県(豊田市)

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①基本方針・上位計画等との適合等	
1) 上位計画(知多湾等流域別下水道整備総合計画、全県域汚水適正処理構想)と適合している。	<input type="radio"/>
2) 豊田市公共下水道事業計画(矢作川・境川流域関連、特定環境保全)と適合している。	<input type="radio"/>
3) 関連する他事業(矢作川・境川流域下水道)の計画と適合している。	<input type="radio"/>
4) 各種事業計画(新世代下水道支援事業)が策定され、適合している。	<input type="radio"/>
5) 各種法令(都市計画法、下水道法等)を遵守している。	<input type="radio"/>
②地域の課題への対応	
地域の課題と整備計画の目標の整合が図られている。	<input type="radio"/>
II. 計画の効果・効率性	
①整備計画の目標と定量式指標の整合性	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
3) 指標・数値目標が分かりやすいものとなっている。	<input type="radio"/>
②事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	<input type="radio"/>
2) 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	<input type="radio"/>
III. 計画の実現可能性	
①円滑な事業執行の環境	
1) 長期的収支計画の見通しが健全と判断される。	<input type="radio"/>
2) 関係機関との協議、住民等の合意形成等を踏まえて事業実施の確実性が高い。	<input type="radio"/>
3) その他、事業実施のための環境整備が図られている。	<input type="radio"/>

【計画名称】

良好な水循環の再生・保全と安全・安心なサービスの提供

計画概要

◆計画期間 平成28年度

◆計画の目標

下水道整備を行うことにより、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。

◆計画の成果目標（定量的指標）

指標①：重点事業外の下水道整備面積率
現況値(H28年度当初) 0% ⇒ 目標値(H28年度末) 100%

指標②：下水熱利用のための施設整備率
現況値(H28年度当初) 0% ⇒ 目標値(H28年度末) 100%

評価内容

◆交付対象事業の進捗状況

交付対象事業	事業費※	事業の実施状況	進捗率※
【A 基幹事業】	267百万円		
未普及解消	248百万円	足助処理区の下水道整備を行い、計画通りの進捗となつた。	100%
未利用エネルギー活用	19百万円	高齢者福祉施設の給湯システムに下水熱の活用を行ったための熱転送管の整備は、計画通りの進捗となつた。	100%
B 関連社会資本整備事業	0 百万円	—	—%
C 効果促進事業	0 百万円	—	—%
合 計	267百万円		

※事業費(は国費対象事業費の実績額)

※進捗率(%) (は各事業の計画に対する実施割合 【整備量ベース】)

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

[基幹事業（未普及解消）] 2-A-3 管渠整備（足助処理区）

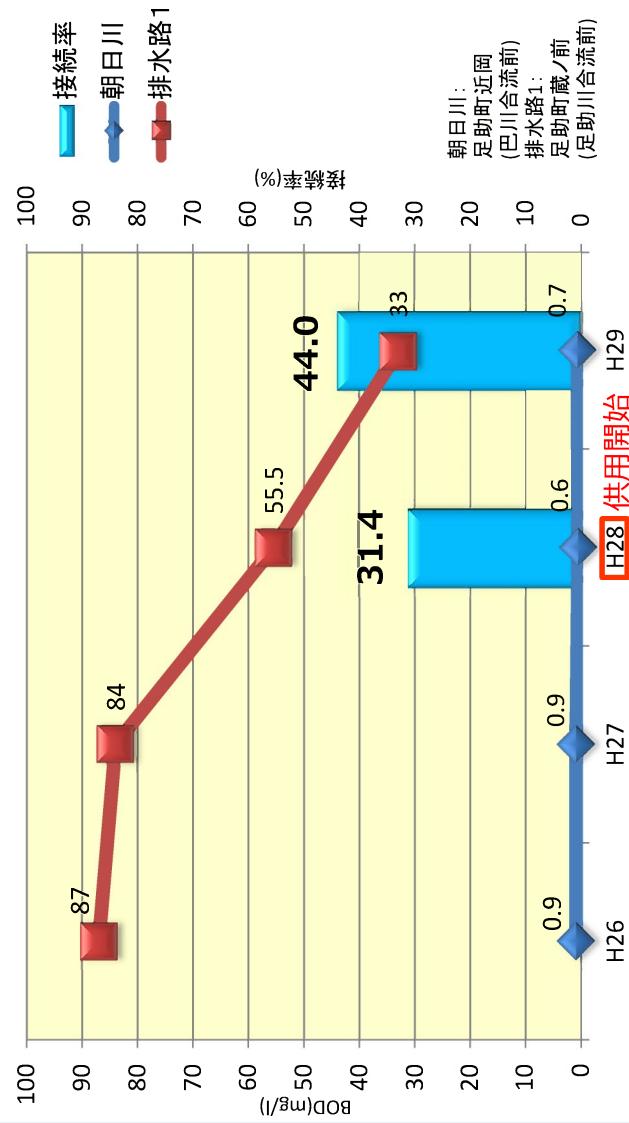
■事業効果

- ・下水道整備区域内において11haの下水道整備を行つた。
- 下水道の普及促進とともに、周辺水域の水質は改善され、**良好な水環境の保全に下水道が寄与**している。

着手前



完了了



<足助処理区における下水道接続率とBODの推移>

◆事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関する交付対象事業の効果の発現状況

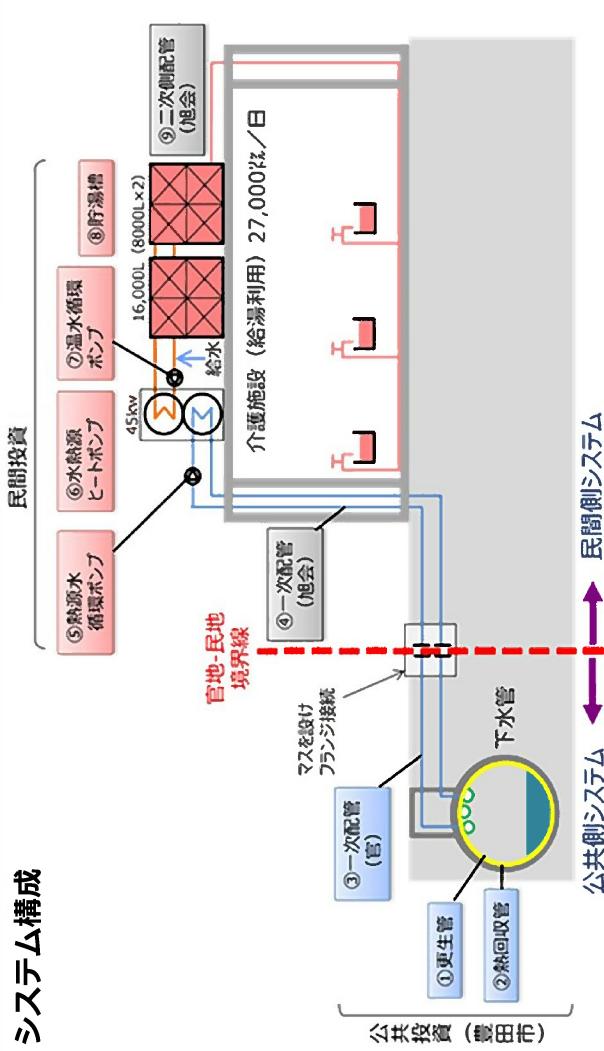
【未利用エネルギー活用】

2-A-4 下水熱利用のための施設整備

■事業効果

下水の水温特性を利用して、その温度差エネルギーを高齢者福祉施設の給湯システムに利用するための整備。資源の有効化に加え、CO₂の削減が図れた。

システム構成



施工中



完了



従来技術（ガスボイラー）との比較

2月、3月計 (59日分)	ガスボイラー	下水熱システム	削減量
換算消費量	都市ガス 3,670 (m ³)	電気 16,550 (kWh)	-
料金 (円) ※從量分のみ	425,697	262,651	163,046 (▲38.3%)
CO ₂ 排出量 (kg)	8,404	7,944	460 (▲5.5%)

中部電力料金単価 15.87 (円/kWh)
業務用プランA
CO₂係数 0.480kg/kWh
東邦ガス料金単価 116.0 (円/m³)
業務用
CO₂係数 2.29kg/m³

II 定量的指標の達成状況

指標①（下水道整備面積率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因
最終目標値	100%	計画通り下水道面整備工事を実施し、目標値を達成することができた。
最終実績値	100%	

※重点事業地区外のうち1年間で下水道整備する面積 (ha) ／重点事業地区外（10年間）で下水道整備する面積 (ha)
(当初現況値) 0 (ha) ／ 11 (ha) = 0%
(最終実績値) 11 (ha) ／ 11 (ha) = 100%

指標②（下水熱利用のための施設整備率）

当初現況値	0%	目標値と実績値に差が出た要因
最終目標値	100%	計画通り施設整備工事を実施し、目標値を達成することができた。
最終実績値	100%	

※整備済みの下水熱利用施設（箇所）／整備済みの下水熱利用施設（箇所）
(当初現況値) 0 (箇所) ／ 1 (箇所) = 0%
(最終実績値) 1 (箇所) ／ 1 (箇所) = 100%

- ・本計画については円滑に事業が進んでおり、目標を達成することができた。
- ・管渠整備事業（足助処理区）については、平成29年度から重点事業地区に位置付け、引き続き事業を推進。